

新転任研修OTを行いました。

令和5年7月24日（月） 新転任研修OT

本校の福祉医療関係人材活用でご指導いただいている富田 真由先生に、OTの内容でご講義いただきました。

麻痺側の手が机から落ちている、背中が丸くなり机との距離が近いなど、日頃の教育場面で教員が抱えている具体的な問題点を事例に、学習課題・学習環境・個人の状態が相互に関わることで、対象児童生徒の課題が見えてくるというご説明をいただきました。学習課題のできていない点に対してネガティブな声かけなどが続くと、学習意欲の低下を招いてしまいますが、「一度のびのびしようか」「眼鏡や傾斜台を使ってみようか」など、声かけや学習環境の工夫で児童生徒の学習への意欲を高められることを教えていただきました。

良い姿勢を保つためには、骨盤が起きていること、座骨の真上に頭があることというコアスタビリティの安定性についてもご説明いただきました。脳性麻痺児は、コアスタビリティの持久力が乏しい子どもが多く、良い姿勢を保ちにくいという特徴があります。そのような特徴から変形や拘縮を招きやすく、悪化すると側弯や股関節脱臼につながってしまうということでした。側弯の影響として息がしづらい、肩や首周りの筋肉が固まる、嚥下障害などが生じます。また股関節脱臼の影響として、歩きにくくなる、移乗時に体重を足で支えにくくなるということなどが生じます。

学校生活における良い姿勢づくりのために教員ができることとして、車椅子に座ったときにお尻がずれていないかの確認、姿勢の線がまっすぐかイメージしやすいように机にテープを貼る、トイレなどの立位場面で手や足をつく場所に目印をつくるなどの方法を教えていただきました。またバランスをとるために、手掌や足底が感覚を捉えやすいように準備しておくことは大切で、学校で取り入れやすい準備体操も教えていただきました。

